

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Gray Scale

C Y M

Kodak
LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



泰西七金譯說 金

洋学文庫
 文庫8
 C 268
 1



嘉永七年甲寅寫

百韻

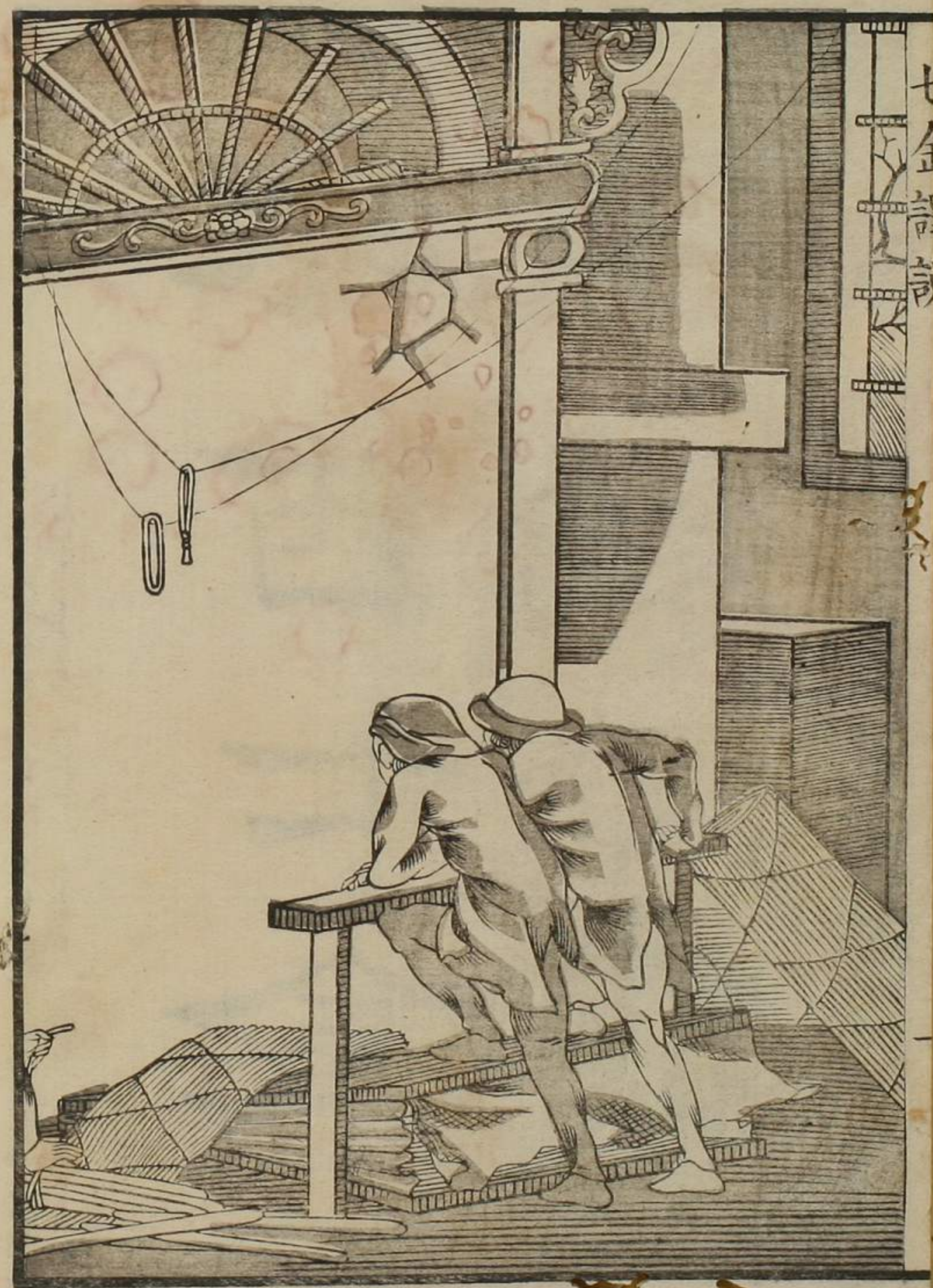
西泰

七金譯說

全五冊

星山閣活版

泰西七金
製煉法圖

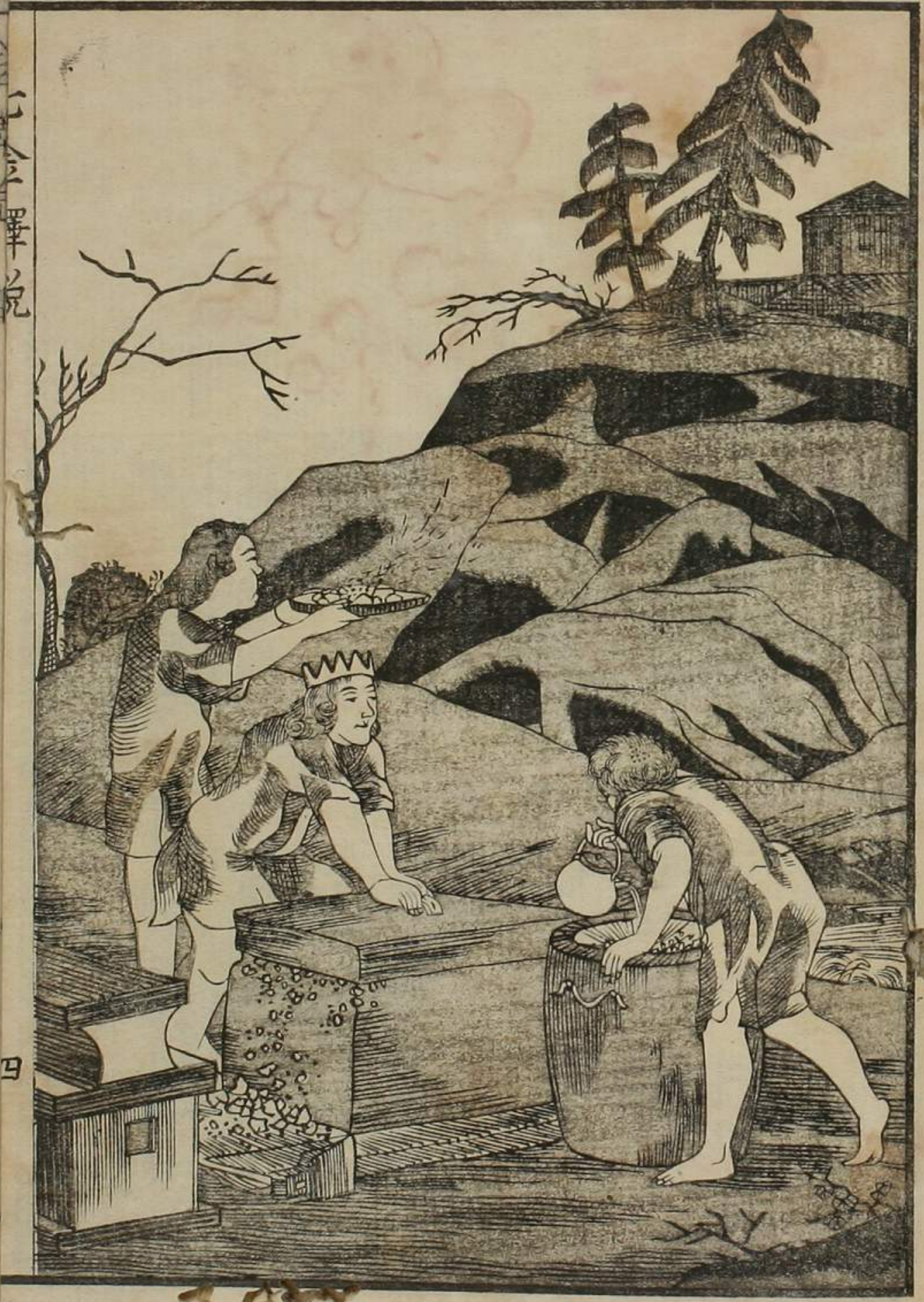




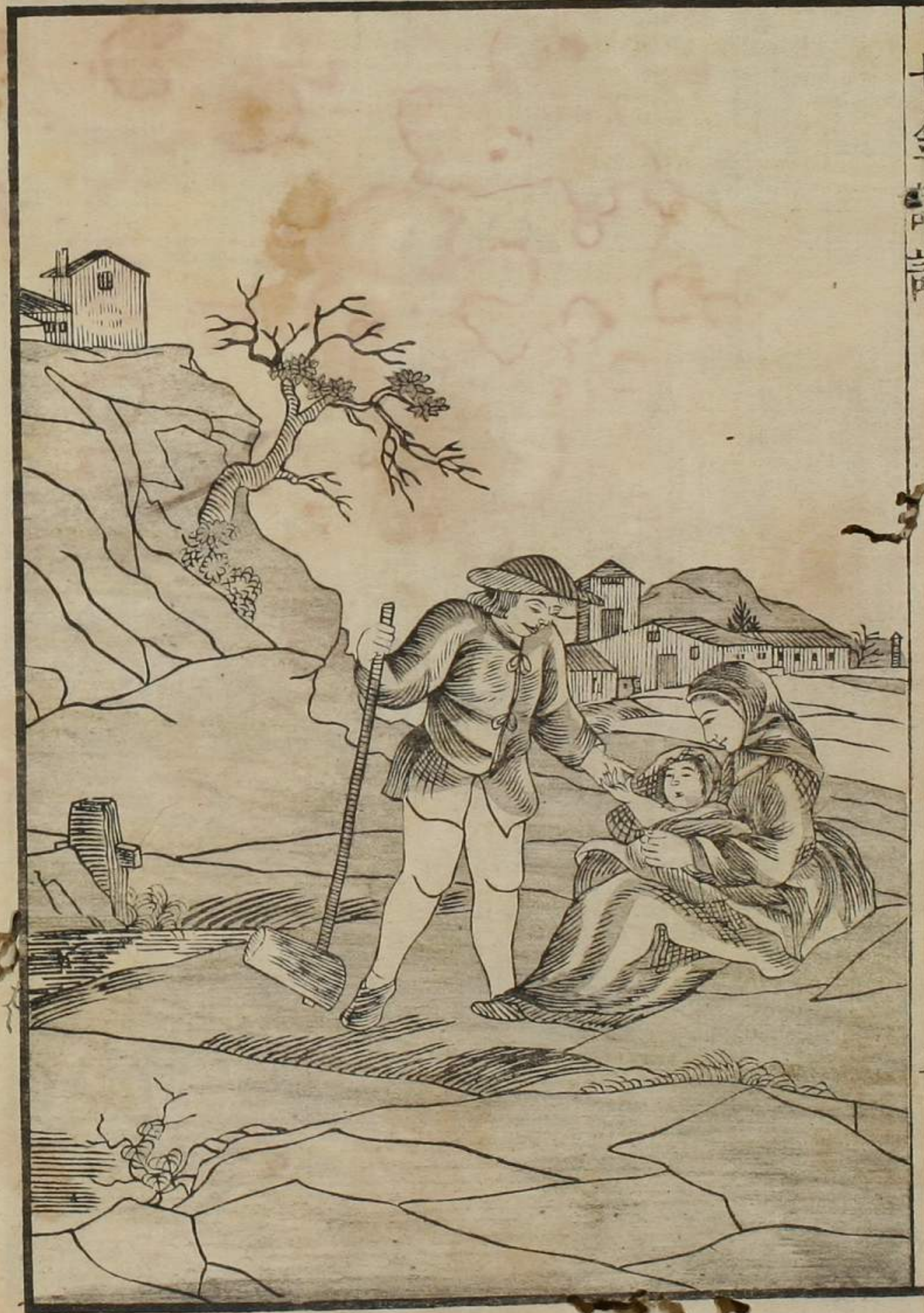
古今源流



世金源流



心平釋說



世道釋說



七金譯說序

作家不用曲尺則不能了功也製煉諸金能不明察
 所其混合之諸品分量與法則之微細則復矣然於
 茲友人某所寫藏之閱一書七金製煉之方法頗盡
 焉實天下希書也予請之為以授一書肆曰庶幾為
 販鬻之具而助徃々製煉家之濟也嘉永七年甲寅
 初冬前六日書于園中庵南窓下

蕪山道人識

七金譯說

此書之入世也... 其法之精... 凡欲知其... 者請... 此書之入世也... 其法之精... 凡欲知其... 者請...

泰西七金譯說目錄

卷之一

金之功德

純精金法

鍍銀器金粉分量

製顏料金粉法

不假火力製鍍銀器金粉法

生鍍器之光澤水藥法

淡色金烏黃色法

解古廢金器法

清潔金色球玉法

復金緣金繡之色法

燒取金銀線法

容易鎔化金銀及移動不附着蠟壺法

重金量法

製金泥法

設紙草金色書畫法

用金漆附硝子皿血紅色顏料法

漆鐵金色法

卷之二

銀

種類

產所

製取銀法

性質

功能

銅

總論

鎔化銅并真鍮速且為軟柔法

柔軟真鍮之硬脆之法

精潔諸銅器具令原色法

為銅或真鍍美黃色法

為真鍍黃金色法

如黃金製真鍍法

不加銀為真鍍白色法

鐵

種類

製法

製鋼鐵法

性質

主治法

卷之三

錫

性質

產所并錫鑛種類

性德

製錫粉法

製錫灰法

製錫鹽法

用錫製束錫紋鹽法

用錫製七サイス金法

鉛

製燒鉛法

製鉛灰

製鉛黃丹法

製官粉法

製鉛鹽法 一名 鉛砂糖

製マキヌテリムハンロト法

至鉛或錫鎔不變灰法

復鉛製藥品再生法

用鉛製水銀法
用鉛製銀法

卷之四

水銀

總論

性質

卷之五

精潔水銀法

製黑色と子ラールモール法

製白ペルシピタート法

製赤ペルシピタート法

製黄ペルシピタート法

製緑ペルシピタート法

製猛升汞丹法共三法

解猛升汞丹毒法

製甘升汞丹法

斯微天石所發明用水銀製梅毒病藥法

布連吉名所發明水銀製藥用法

殺水銀法

細末水銀法

塊凝水銀法共二法

用水銀製銀法

令塊水銀至可鑄造法

塊凝水銀又法

用鉛製水銀法共三法

七金譯說目錄畢

カ水勢空氣及ヒ土氣等ニ因テ減消スルナク固
ヨリ腐敗シ或ハ鑄ル等ノ丁絶ヘテナキカ故ナリ
○金ノ貴ム所以ハ右ニ云フ如ク尤ヒ堅重ニノ廣
長ニ打延フヘタ且ツ光澤アルハナリ然レ凡人間
ニ益ヲナス丁ヲ以テ論スル片ハ無益ノモノニ
諸金ノ長ニアラス雜金ノ内ニ加フヘキ物ナリ何
トナレハ若シ黄金ヲ貴ビモトセハ暫ク金錢ノ
通用及金色ヲ以テ飾ルコトヲ廢メ其無用益ヲ他ノ
諸金ニ比較セハ實ニ金ハ人間ニ無用ノ物ニノ遙
ニ諸金ノ下ニ位スヘキ物ナリ其時ニ至テ他ノ諸
金ノ中別テ鐵ノ如キハ人間ニ尤モ有益ノ物ニ

暫クモ闕クヘカラス最モ貴重スヘキ物ナリ然レ
凡コレ夥シキニ因テ人ノ程ニ貴重ノ物ト思ワ
ス即家用ニナストコロヲ以テ論スレハ鐵ハ尚諸
金ノ長ト謂ツヘキ物ナリ

○金ハ最モ硬堅ニノ火ヲ防保スルコト諸金ニ越ヘ
タリ故ニ少シ他物ノ混交ヒサル所ノ純金ハ幾久
クコレヲ烈火中ニ投シ置タトイヘ凡其量目少モ
減少スルコトナシ勃ル利人曰一兩我ハノ金ヲ以テ
二箇月ノ間晝夜火ヲ消除スルコトナヤ硝子竈ノ中
ニ納レ置キシニ其量一厘モ減セストナリ即金ハ
他ノ諸金ノ如ク人術ヲ以テ設ル火力ニテ其量

ヲ輕クナシ又速ニ鎔化スヘカラス然レモ甚々大
 ナル顯微鏡ヲ以テ日輪ノ火氣ヲ取りコレニ當ル
 寸ハ少シク其量ヲ輕クシ且速ニ鎔化スコレ勿木
 別ルナル者常テ試定發明スル所ナリ
 ○金ハ諸金ノ中ニ於テ最モヨク打延フヘク且無
 量ノ精微ニ分離スヘシ即銀一觔ノ中ニ金一厘ヲ
 加ヘ混和セシムルニ其銀處トシテ金ノ微體普ク
 平等ニ交和シテアラサリシハナシ勃ヒ烈日曾テ
 一厘ノ金ヲ薄クウチ延ハセシニ七寸方ニナシ得
 タリトコレヲ以テ思ヘハ人ノ恒ニ一ヲカト金
 ノヲ打延ハセハ一騎馬ヲ貽金スヘシトイヘル俗
 名

語奇トスルニ足ラス又嘗テ重サ一兩我ノ銀

金八厘ヲ加ヘコレヲ以テ絲ヲ造リシニ一千三百

尺トナリ其糸處トシテ金ノ至ラサリシハナシ王

學校ノ按拂即察國ノ一千七百十三年我年正徳三ノ

記録ニ曰一兩我ノ金ヲ打チ延ハセシニ長サ十

九萬五千尺トナシ得タリコレヲ拂郎察ノ里法ニ

直セハ七十三里自注ニ曰大尺ニナリトコレ

豈驚愕スヘキ大數ナラリヤ

○金ハ重キト他ノ諸金ニ勝ルノミナラス尚諸實

体ヲナスモ皆コレト衡ヲ等スルモノナン其重

キトヲ試ミ知ルニハ同寸方ノ物ヲ衡ニカク比テ

モ知ルヘシ又一ツニハ水銀ニ投入シ試テモ知ル
 ヘキナリ即佗ノ諸金ハ皆水銀上ニ浮フ凡獨リ金
 ノミハ其中ニ沈ム水ト金トノ比例ハ一ト十九ト
 ノ如シ蓋シ夫コレカ他ノ金石ヨリ重ト所以ハ質
 最密實ナルヲ以ナリ但シコレ密實ナリトイヘ凡
 猶氣眼ナキニアラス何トナレハ弗魯連的印地名ナ
 ル一儒家金丸ニ水ヲ入レロヲ鑄テ固封シ驟轉
 フ以テコレヲ締メシニ其水外ニ透徹シ出タリト
 アレハナリ
 金ヲ燒キ其火氣ヲ含テ後久其炎熱ナルト他實物
 ニ火氣ヲ含メルヨリハ火ニ猛戾ナリコレ亦其質

○密實ナル所以ナリ都テ金ハ火ニ煨テ其鎔和ス
 ル以前ニハ光輝尤モ甚シ又コレヲ煨キ火トナシ
 テ後其鎔和スルト殆ント鉛ノ如ク銅ノ鎔和スル
 ヨリハ速ナリ既ニ鎔化シタル寸ハ毎ニ色變シテ
 海綠色トナルナリ

○諸金ト混シテヨク和シ水銀トハ尤モヨク化ス
 ルナリ自注ニ曰水銀ヲ用テ清潔ニナラシメタル
 銀ハ殆ト銀ノ如シ又アソクニシテ清潔ナ
 ラシムモノナシ

○王水ハ金ヲ解化スル液汁ナリ強水ヲ用テハ鎔
 化スヘカラス然レレコレニ鹽ノ精氣ヲ加フレハ
 金ヲ化レシムルナリコレ等ヲ以テ鎔化シタル金

二 鑛蓬鹽精ヲ加ヘテ地中ニ埋メ自ラコレニ熱氣
 或ハ火氣ヲ催ス寸ハ自ラ雷鳴ノ如キ音ヲナシ空
 中ニ飛彈シ其物ヲ撃ツ勢大砲ヨリ放ツ火藥ヨリ
 ハ勢ヒ尚甚シ其勢ノ火藥ニ勝ル寸十六倍ス
 ○或製煉家ノ説ニ曰金ハ精潔ナル硫黄ト自然ニ
 塊凝シタル水銀ト相交和ノ成ル所ノモノナリ是
 唯其色ヲ視テ究理スルモノニ似タリトイヘ凡其
 色實ニ硫黄ノ色ト思ハル、ナリ即諸製練家曰金
 ヨリ硫黄ヲ製シ取ルヘシ硫黄ヲ取除キタル金ハ
 白色トナル又コノ硫黄ニ其コレヲ制シ取りテ殘
 リタル金ノ分量ホトノ銀ヲ加フル寸ハ其銀忽チ

金トナルト又曰ク金ノ内ニハ必水銀混交シタリ
 若シコレニ水銀混和シアラサル件ハ更ニ金ハ鎔
 化スヘカラサルモノナルヘシ既ニ術ヲ以テ水銀
 ヲ塊凝ナラシメコレニ金ヨリ取りタル硫黄ヲ加
 ヘヨク混交スルニ堅實ナル純金ノ如クニテ烈火
 或ハ解化液ヲ以テ鎔化スルトイヘ凡全ク解化ス
 ル寸ナク固ヨリ其令セタル二品火力ヲ以テ初ノ
 如ク各分離差別シ得ル寸能ワス又曰ク硫黄水
 銀二品ハ膏ニ金ノミナラズ猶他ノ諸金ニモ混交
 シタリコレニ由テ諸金皆堅硬ノ質ヲ得又火力ヲ
 假テ柔輒トナスヘシ但此硫黄ト云フハ膏ノ燒消

スヘキ物ニアラス一種ノ硫黄ニメハストマ_トケ
 ンテシール令凝固羅甸呼テアシテユムヒケンス
 ト云フモヲナリトサテ又奇トスヘキ_トアリ尋常
 ノ水銀ハ鎔化シタル鉛ノ蒸氣ニ申ル_トハ忽チ塊
 凝ス金モ又此蒸氣ニ觸ル_トハ自ラ脆クナリテ取
 リ用フヘカラサルニ至ル乃或製煉家曰右ニ云フ
 一種ノ硫黄ヲ得ル_トハコレヲ以テ金及ヒ諸金ヲ
 製レ得ヘキノ理アリト此レヲ聞テ或ハ臆説ナリ
 ト云フ者アリ或ハ又コレヲ信スル者アリ爰ニ其
 確證ト云フハ古シ波羅尼亞國王アウキステスナ
 ル者ニ銀ヲ以製金法ヲ知ル_ト其ノ一人アリ王命シ

師此高名ヲ聞キ來テ先ツコレニラ_トヒスヒロソ
 ホリム_ト功ヲ問フ共ニ論シテ後又諸金ノ論ニ接
 リ互ニ微論スルニ不圖誤テ金ハ製造スヘキ法ア
 リト云フ_トヲ云フ先師コレヲ聞テ曰ク汝ハ虚談
 空言ヲ云フ者ナリ豈金ヲ製造スル_トヲ得ル_トア
 ランヤ吾其空説ナルヲ知ル若シ_トラスンハ吾ニ
 コレヲ製造シテ見スヘシト大ニ訊問セラレシニ
 依テ此者一ハ其虚談空言ト言ワレシ鬱憤ヲハラ
 サンカタメ一ツニハ其妙術ヲ知ルト云ノ慢心ヨ
 リシテ直ニ其先師ヲ己カ製煉處ニ伴ヒ行キ一_ト片
 ノ銀ヲ以テ忽チ金ヲ製造シテ見セシメカツコレ

カ偽真ヲ鑒定セシメシカ爲是チ一家ノ金匱ニ送
ル金匱曰クコレ尤ヒ上品ノ純金ナリト故ニ先師
大ニ此者ヲ尊親シテ曰ク先年ノ如ク吾宅ニ歸宿
シ給フヘシト乃遂ニ共ニ先師ノ宅ニ行キ其夜コ
ハニ宿セリ而ノ竊ニ閨中ニ於テ思ヘラク我レ此
法術ヲ傳ヘナハ我ニ利益少シ若シ又此ヲ傳ヘサ
ル件ハ彼レ我ヲ如何ハセン如シ明日未明ニ爰ヲ
出走センコソ勝レリトコレニ決定シ素ヨリ無妻
孤獨ノ身ナレハ翌早朝竊ニ此處ヲ出走セリ然ル
ニ師ハ此者ノ久シク聞ヨリ出テ來ラサルヲ以
テ若シクハ疾病不例ナルコトモアラシカト其

テコレニ數萬金ヲ製セシメタルヲアリ又其
者コノ製造法ヲ知レル來由ハ其幼年ノ頃ヨリペ
ルレイニ各地ナル合藥家ニ從フテ其法術ヲ學ヘリ
然ルニ其師タル者ト確執ヲナシ其家ヲ出テ彼レ
コレト時日ヲ移シテ遂ニ其壯年ノ頃ニ至ル或時
ニ不圖一製藥家ニ見ヘテ再ヒ又コレニ隨從シコ
レニ勤ムルヲ允モ切ナリ故ニ師此者ヲ大ニ愛ス
師遂ニ病ヲタメニ伏シ自ラ其死症タルヲ察知シ
此者ニ向テ云予カ病治スヘカラズ汝常ニ我ヲ扶
助シ忠ヲ盡スヲ淺カラズ故ニ汝ニ留念物ヲ與ヘ
ニ予死タラハ室中ナル小キ箱ヲ開キ見ルヘシ

此者ニ向テ云予カ病治スヘカラズ汝常ニ我ヲ扶
助シ忠ヲ盡スヲ淺カラズ故ニ汝ニ留念物ヲ與ヘ
ニ予死タラハ室中ナル小キ箱ヲ開キ見ルヘシ

種ノ藥品十短文アリ充コノ藥ヲ以テ其短文ニ載
ル法ノ如クナサハ大ニ利ヲウルヘシ師終ニ死セ
リ故ニ此者遺言ニ任セテ一室ヲ開キ見ルニ小箱
有テ其中ニ瓶一ト小書アリ其書ニハ瓶中ノ藥品
ヲ以テ黄金ヲ製造スル法ヲセ載タリ故此者喜悅
スルコト少カラズ取アヘス試ニコレヲ以テ製造ス
ルニ其傳ノ如ク眞金ヲ製シ得タリ其後モコレヲ
用テ專ラ金ヲ製シ夥シク利ヲエタリ其門漸ク世
ニ知レテ名甚ク高シ然レモ誰トシテ此法ヲ知ル
者ナク又工夫スルコト能ハサレハ人聞テコレヲ羨
ムノミ然ルニ其者幼少ニ使ヘシヘルレイシノ先

閨中ヲ窺フニ空シク人トシ故ニ大ニ驚キ直ニ人
ヲシテ其彼力以前ニ在シ家ヲ尋問セシムルニ彼
レハ今朝早ク何レヘカ發行セリト云フ乃先師大
ニ怒リ速ニ其在所ヲ探索ヒンコトヲ其處ノ領主ニ
請フ故ニ地頭ヨリ人ヲ走ラシメコノヲ捕ヘテ引
キ戻サントス然ルニ漸ク其時刻移リタルヲ以テ
追手ノ者終ニ追ヒ着クコト能ハス遠クテコレステシ
ノ市門ノ際ニ於テコレニ逢フ直ニコレヲ捕ヘテ
嚴シク警メリテステシノ人其追手ニ向テ彼レ
罪ヲ問フ逐手ノ者コレニ實ヲ對フ其地ノ人彼レ
カ罪ノ僅ナルヲ以テ慈ミ其始末ヲ國王アウキス

告々訟フ王此者ヲ召シ目前ニ於テ其術ヲ試ム
然ルニコレハ世ニ賈金造者トハ異ニシテ真術純
金ヲ製造セシ故ニ王直ニ高位ニ進メ大祿ヲ賜フ
尤七國中遠キニ行クハ禁セラレ唯近隣ノ信服
悉親ソ官吏ノ方ニ行クハノミヲ許セリ而メコレ
ニ夥多ノ金ヲ製造セシメタリ後ニハ其故ノ師ヨ
リ譲リ受ケタル一藥味ヲ盡シタルニ因テ金ヲ製
造スルヲ廢セリ其頃ハ人疑フテ彼レ懶惰ヨリ
其製造ヲ廢セント思ヒ強テコレニ製造セシメシ
トス後遂ニ其製煉ヲ廢セシハ藥品ノ盡キタルユ
ヘナルヲ知リ王ヒ亦其實ヲ知テ彼レヲ許ルシ

コレ製金術ノ外ハ世ニ貴重スルサクシセホルセ
レイン按ニ一種陶器ノ名ノ創製ヲナシ專ラ世ニ行ワル
ハニ至ル功アルヲ以テ毎歲給金ヲ賜フナリ即往
古金ヲ製造セシ證據如此此他金ヲ製造セシトア
リシトハ諸書ニ見ヘタリテアラステスハラセ
ルシ以ナル者セ製金ノトヲ云フト斯ノ如ク往古
ヨリ稀レニ製金法ヲ發明スル者アレハ皆其法ヲ
秘スル故ニ世傳ワルトシ既ニ此法ヲ發明セン
ト意ヲ注ギ思ヒテ勞セシ者數多アリ然リトイヘ
ハ工夫シ得ル者更ニナシ既ニ一人此法ヲ探索發
明シ得ントテ苦難ノ業ヲナシ且コレカ爲ニ多財

ヲ散シ遂ニ吃食トナリシ者アリ又ペノテスト云
フ者アリ九十八歳ニテ蘇亦齊ノ病院ニ卒ス此者
末期ニ至テ世ニ我カ敵トスル物ハ製煉術ナリ我
此齡ニ至ルマテ製金ノ法ニ意ヲ勞セシトイヘ
今ニ至ルモゴレヲ發明シ得ストイヘリトナリ此
ノ如ク此ヲ發明セント心ヲ勵マス者アリトイヘ
匠未タ明カナラリルナリ

○予ハ製金ノ法ヲ知ラサレ匠獲金ノ術ヲ知ル凡
誰トナク或商賈ナレハ交易貴賈ノ道ヲ勵ミ匠人
ナレハ其巧術ニ意ヲ用ヒ農氏ナレハ耕作ヲ怠ラ
ズ正直ニ勵ムヘシ自ラ多ク金ヲ得ルコレ予カ獲

金ノ法ナリ

○羅甸語ニテハ金ノ通名ヲアウムト云フ製煉
家ニテハコレニ種々ノ異名ヲ附ス即ソルレヲコ
ルヒス「ル」ペウムルモセ子キスヒリウスノリスハ
アテルイクニスリヘウスヒリウスリメンマユス
及ヘルメンリムリブリム等ノ名アリ皆コレ其黄
色ナルヲ以命名スルモノナリ然レ匠波宛米照ノ
内フラトト云フ所ナリハ白色金ヲ産ス或曰金
ノ黄色ナルハ製煉家ノ法術ヲ以テ或ハ除去シ或
ハ再復添色スヘシトナリ

○金ニ數品アリ或ハ銀銅ノ類多混和シタルアリ

或ハ混交スルト少キ物アリ混交シタル者多少ニ
ヨリテ其品類ヲ分ツ鑄金造錢行及ヒ金匠ハ必ス
コレニ他物ヲ交和ス他物ヲ交和シタル物ハ柔軟ニ
ノ取扱ヒニ易キカ故ナリ

○監定及ヒ金ノ品位ヲ定メ名クルニカラト
ノ語ヲ以テス自註ニ曰カラトト余量ノ名假令ハ
少モ他物ノ混交セサル純金ナレハ是ヲ二十四カ
ラトトノ金ト云フ又其金ノ二十四分ノ一銀銅或
ハ其他ノ物混交シタルハ是ヲ三十三カラトトノ
金ト云フ又純金四分ノ二ニ銀四分ノ一銅四分ノ
一混交シタルハ十二カラトト金ト云ノリ斯ノ如

ク混交シタル物ノ多キ程カラトトノ數ヲ減シ唱
フル但シ其品ノ善惡カラトトノ數ヲ定メ得ルニ
ハ試金石ヲ以テス尚精密ニ查看スルニハ別ニ鑒
家ノ法アリ

○製煉家ニ於テハ凡金ヲ二類ニ分ツ其一ハ金鑽
ノ間ニ附着シタルヲ術ヲ以テ鎔シ取ル物ナリ其
ニハケテケンコウト一名マータンコウトト
名クコレハ素ヨリ精純ニシテ混交シタル物ナリ
直ニ採川スヘキモノニテ其色黄ニ紅ヲ帯ヒタル
モノナリ

○金ハ都テ世界ノ諸國ニ在ル山中ヨリ漏出スル

リ即亞細亞洲ニテハ亜利度亞支那日本暹羅アセ
ムチリハラ甘波亞滿利加瓜哇須瑪太刺島及七此
地ノ諸處ニアリ此諸州ニ於テハ支那ニ尤モ多シ
然レ此此地ニ銀ハ少キ故コ支那人等ハ銀ノ尊ミ
金ヲ以テ銀ト交易センコトヲ好ム亞利加州ニテ
ハ烏匿垂ノ中ヨウトキヌ及ヒ麻打葛失加兒鳩ヨ
リ産スア墨利加州ハ金ヲ産スル處尤モ多シ即マ
リカホハルトイナ智里ホトニ孛露ノ中ナルシイ
ト墨期哥伯西兒及其他ノ諸地ニモ産ス伊斯巴泥
垂ヨリ毎歲此諸地ニ數船ヲ致シテ夥多ノ槌金ヲ
買ヒ求メテ本國ニ運送ス又羅歐巴州ニ於テ蘓

亦齊諾兒勿入垂翁加里垂ニ産ス右四大州ノ諸國
皆コレヲ産スルトイヘ凡就中尤モ夥シキ地ハア
刺ヒ垂支那孛露及翁加里垂等ナリ總テ歐羅巴產
ノ金ハ皆濃シ又垂墨利加産ノモノハ色薄ク白色
ヲ帶ヒテ鎔化シ易キコト殆ント鉛ノ如シト云フ
○金ハ元ト皆一種ノ土石ノ間ニ筋様ヲナシテ附
着シタル物ナリ其時ノ色種ハ々有リトイヘ凡總
テハ灰色或ハ黄色ナルモノ多シ堀金匠等コレヲ
取テ或ハ洗ヒ注キ未ニ搗キ火ニ煨キテ金ト土石
トヲ分離ノ而後皆水銀ノ中ニ投入シテ集メ一體
ニナラシム若シ又コレニ他ノ銅銀ノ類混交シタ

ル代ハ或ハ分離液或アソチモニイヲ以テコレヲ
分離シテ精純ニナスナリ

○世界ノ諸州ニ金ヲ産スル江河處々ニアリ其處
ハ都テ山ヲ距ルヲ遠カラズ曲流ヲナス其處ノ砂
中ニアリ其金皆火力ヲ假テ鎔化スヘシ歐羅巴州
ニ於テ金ヲ産スル河ハレイニトナウエルヘロ子
及ヒタトタ河等ナリ亜細亞州ニ於テ公安日河亞
弗利加州ニテハコウトキストノホルタ河ナリ亞
墨利加州ニテモ斯ノ如ク金ヲ出ス河アリコレハ都
テ最ニ細粒ナリ時ニ因テハ豌豆ノ大ナルモノ
アリ其ニ砂中ニ混交シタリ此金ヲ得ルニハ先ツ

其砂ト共ニ取テ洗ヒ注キ擇ミ分ツナリ但シ此ヲ
製シ取ル所ノ失墜及テ製シ得ル所ノ金ヨリハ大
ナルニ因テ人常テ川産ノ金ヲ取ルトヲセス尤モ
嘗テ川産ノ金ヲ以テ製造シタルト云フ金錢ヲ見
タルトアリコレハ古ヘヘスセン地名ノ侯第六世ノ
カールルノ代ニ其國中ナルヘテルトイヘル川ノ
砂中ヨリ取リタル金ヲ集メ造リタルモノナリト
ナリ或人曰ク亜弗利加ノ土人ハ恆ニ河底ニ潛ミ
至テ黥シク砂中ヨリ粒金ヲ拾ヒ取ルト
○所謂クテイクンゴウト前金ノ云一種ハ時トシテ
クワルツ名及其他ノ石内ニ在ルトアリ人其石ヲ

収テ碎ケハ黄色ノ細粒ヲ見ル蓋シ其石ハ質都テ
 柔軟ニノ利刀ヲ以テ切り又其面一線ヲ引クヘキ
 物ナリ金ヲ含ミタルカ否ルカヲ知ルノ法アリ則
 其石ヲ取テ水銀ノ蒸氣ニ中ルヘシ金ヲ含ミタル
 ヒノナレハ忽チ白色ニ變スコレ確固タル頭微ナ
 リ翁加利亞ノカルフチ山ニ柘播ノ實ノ如キ紅色
 ノ小石アリ此内ニハ皆金ヲ含メリ又東方ヨリ來
 ルラシールスラーン按ニ此石ノ名亞細亞ノ並
 刺皮・並ニ産ス其色綠色ニ
 或人曰嘗テ翁加利亞ノ山中ニ生ヒシ葡萄樹ヨ
 リ金ヲ製シ取リシトアリ益シコレハ其幹ノ内ニ

筋様ヲナシ又其實中ニハ粒ヲナシテアリシト又

ホレルレン按ニ魚名ナリ此魚ハ鱗最モ小一ノ
 紅色或ハ紫色ノ斑点アリ肉色ハ或

頭中ニ粒金アリシトアリト若シ此ニ説共ニ眞實

ノ丁ナレハ甚々珍車トスヘシ

歐羅巴諸國ノ金錢ニテ翁加利亞及ケレムニス

ノ通用錢ノヨリイニ名ノ像ヲ刻スルモノ並ニ和

蘭ノ通用金錢ヲ最上品トス就中和蘭ノ金錢ハ最

ヒ良シコレ皆東印度ノ諸國ヨリ求メ得ル金ヲ以

テ製造スル物ナリ伊斯坦尼亞國通用ノ金錢ハ

レニ亞キ諸厄利亞國ノ錢ハ伊斯坦尼亞國ノヒノ

ニ亞ク而ノ最ト劣ルモハ拂郎察通用ノ錢ナリ

都て金錢其二其品位二善惡ヲナスハ其純駁二因
ルナリ又其混和スル物ノ多キ程輕ク系夕脆クナ
リテ色モ或ハ白ク或ハ赤クナル物ナリ

金之功德

○金ノ大徳ハ人各知ルカ如ク交易賣買二用ヒ此
レヲ以テハ各欲スル所ノ諸物ヲ得ル故ニ天下ノ
ハコレヲ好マリルモノハナシ金匠ハコレヲ用テ
一程々ノ要器或ハ飾トナスヘキ品物ヲ造リ金箔匣
ハコレヲ用テ銀銅鐵鉛錫木石皮紙二貼シテ其金
ノ如ク人目ヲ欺キ又コレヲ絲トナシテハ繡刺ニ

用ヒ其多用ナス丁舉テ算フヘカラス
又金箔ヲ磨シ金泥ヲ製シ畫家ノ用トス又紅色ノ
玉石ヲ偽製スルニコレヲ加フ尤モ美麗ノ紅色ヲ
得ルナリ

○藥用ナシテハ功ナシ古ヘ製煉家ニテ一種ノ金
色添汁ヲ製シアウリムホタヒレト名クテ賣藥ト
ナシ萬病正コレヲ用ユレハ治スルト言シカ如ク
數多ノ功能ヲ書キ記セリ然ルニ近世ニ至テ漸ク
人其寸功ナキヲ知リテ今ハ余ク廢セリ如何シテ
金人躰ニ入テ細密微塵ニ鎔ケ血液ト混和スル丁
アラシヤ況功ヲナス丁ノ理ニ於テナヤ金腸胃ヲ

入ルトキハ反テ害ヲ生スルナリ金ヲ加ヘ製シタル藥品ニヨク功ヲ顯スモノアリトイヘレコレハ其金ノ功ニ因ラナス所ニアラヌク其合藥ノ製ナリ故ニ金ヲ加ヘ製スル藥法ノ其金ヲ除キ製シコレヲ用ユルモ其功少ト違ワサルモノナリ

○心ヲ強盛ニスル一種ノ散藥ニ金箔ヲ加ル法アリコレハ金箔ヲ主劑トナシ最モ心ヲ強クスル物トナス然レレコレハ強心ニ功ヲナス丁ナシ只觀美ヲノミ都テ丸藥ニ貼スル金箔皆然リ

○曾テ人ノ金ハ大功ナルモノト信用スル其起原ハ全ク古詩中ニ謬言アルヲ以テナリ則曰黃金尤

應貴里也加藥劑亦甚有奇功也トコレ三四テ世俗專ラ藥用トナシ始メシ所以ナリ然レレ造物主ハ金ヲ藥用ニ充テス全ク他ノ用ニ供セシ物ト見ユ

○又トシテレントコウトト名テ金粉ヲ主劑トシテ製シタル發汗ノ藥アリ今ハ其功ナシ多行ハレスト大ニ他ノ輕キ藥品ニ劣ル但水銀劑ノ吐涎藥ヲ遇用シ其吐涎ヲ止ムルニハ良シ此侯ニ用ユル寸ハ本躰内ナル水銀ノ氣聚メ寄セ共ニ一体トナリテ出スレハナリ若シ人誤テ水銀ヲ吞ミタル寸ハ口中ニ金ヲ合ムヘシ其害ヲ免ル但シ含ミタル金ハ忽チ白色ニ變ムヘシコレ水銀金ヲシトウニ

相聚リ自カヲコレニ附着スルヲ以テナリ斯ノ如ク水銀ハヨク牧ヲ透徹貫通シテ金ヲシトウモノナリ

○左ニ金ノ製法及ヒ都テ金ノ取り扱ヒ方ヲ記ス以テ好車家ノ爲ニ供ス

純金精法

○金ヲ精潔ニ爲ント欲セハ先ツ其量目ヲカケ改メ鑑壺ニ投入シ武火ニヒビ而ノ其投入シタル金ノ二三倍ホトニモ粉末ニ搗キタルアチモニヤヲ加フヘシ金速ニ鎔化ムコレヲ煮ル丁化金ノ自ラ光輝ヲ生シ炎ヲ發スルヲ度トス而ノ後ニ火ヨ

リ下シヨク化金ノ壺底ニ沈靜スル様ニ少シク鑑壺ヲ動揺スヘシヨク冷タラハ其鑑壺ヲ打チ碎キ金ヲ取り出スヘシ既ニ純金トナリタルナリ其鑑壺ヲ打チ碎カス全クシ置キテ再ヒ用ント欲セハコレヲ火ヨリ下ク以前ニ鐵臼ヲ取テ少シク温メ内ニ油ヲ塗り置キ此中ニ鑑壺ヨリ化金ヲ移スヘシ移シタラハ鐵箸ヲ以テ其凉定ムルマテハ臼ノ縁ヲ敲シヘシ冷定シタラハ其金ヲ取り提ヲ以テ其上面ニ着キタル滓ヲ打チ除キ去ルヘシ此ニテ凡ソ皆精純ニナルナリ若シ又ユレニヤンチモニヤ或ハ他ノ銻石ノ類混着シテ十分ニ精純ナラサル寸ハ又法アリ左ニ説ク

又方

○再ヒコレヲ鑑壺ニ没入シ武火ニ上セ鎔化シテモ尚一小時ノ間ハ火上ニ置クヘシ然ル寸ハコレニ混交シタルアニチモニヤ或ハ他ノ金燒ケテ煙ト成テ消散シ或ハ滓ト成テ上面ニ浮ムナリヨク冷シタラハ其滓ヲ除キ去ルヘシ

又方

○再ヒ金ヲ爐壺ニ入レ武火ニ上セ鎔化シタラハ金ノ三倍ホトノ硝石ヲ取リコレヲ徐々ニ加ヘ火ヲ強クシテ煮ル丁時久シク壺中ノ熾氣絶ヘ化金

精潔ニ見ユルヲ度下シ火ヨリ下シ而シテ前法ノ如ク鐵臼ニ移シ冷定スルマテハ臼ノ縁ヲ敲キヨク冷シタラハ其滓ヲ除キ去リ洗ヒ注キ乾スヘシ金全ク純精ニナルトリ而後ニ再ヒコレヲカケ試ムヘシ混和シタル不潔ノ物ノ消除シタル分量ヲ知ルナリ

○金銀銅鐵相混シタルヲ分離スルノ法ハ既ニ別ノ分離法ノ條下ニ説キタリ然レモ爰ニ尚銀ヲ分離スルノ一法ヲ記ス蓋シ都テノ法ハ強水ニ銀ヲ投ヘシ化シテコレヲ銅ノ蒸露器ニ入レ分離ス注自ヲモテ爲ヘシ然レモハ蒸露器ニ銀附着シテ

容易ニ離スヘカラサルヲ患アリ故ニコレヲ蒸露
器ニ入レス最初強水ニ鎔シタル寸其強水ノ中ニ
於テコレヲ寄セ集ムルヲ良シトスコレヲ寄ルニ
ハ其銀ヲ入化シタル強水ヲ臺ニ入微火ニ上セ強
水ノ乾クマテ此ヲ煮強水既ニ消散シテ乾キタラ
ハ水ヲ投入シ然レ其銀ヲトリ器ニ入レ其上ニ鐵
ト水銀トヲ投入シ静ノ置シテ二三日然ル寸ハ其
銀ニ添ミタル強水ノ氣ハ鐵ニ吸ヒ集メ銀ハ水銀
ト交ル故ニ其水銀中ナルハ紙銀ナリ而後其水銀
ヲ取テ皮袋ニ入レ押シ絞ル件ハ水銀ハ外ニ漏レ
銀ノ内ニ存ス此銀ヲ鑪壺ニ入レ煮ル寸ハ乃其水

銀ノ餘分消散シテ全キ純銀トナルナリ

○蒸煨シテ金ヲ精純ニナス法アリ即瓦磚ノ細末
及鹽粉各等分ニ交和シ合ヲ加ヘ混シコレヲ鑪壺
ノ半マテ納メ其上ニ打子延ヘタル金ヲ置キ其上
ニ金末ヲ入レ又其上ニ延ヘタル金ヲ置キ又其上
ニ金末ヲ入レ斯ノ如ク金粉ト延金ト相互ニ入レ
鑪壺ニ充タシメ蓋ヲ覆ヒ氣ノヒレサレ様ニ益ノ
周リヲ塗リ塞キ火ニ上セ煨クテ一晝夜然ル寸ハ
金中混和シタル不潔異質ノ物ハ皆燒ケテ獨金リ
ノミ其中ニ在ル但シ此法ニテハ銀ニ混和シタル
物ハ除クヘカラサルナリ凡純金トナヌ法種々コ

レアリトイヘ氏就中前件所謂アチモニヤヲ以
テスルヲ最上法トス毎ニキ精潔ノ純金トナリ
ナリ

鍍銀器金粉分量

○秤ヲ取り其一方ノ皿ニ渡金シタル銀器ヲ載セ
又其一方ニハコトト平衡スル程常ノ銀ヲ入レ先
分量ヲ同等トラシメ置キ而後ニ壺ニ水ヲ入レ其
水中ニ右ノ秤ノ皿ニツトヒニ一齊ニ入ルヘシ水
中ニテハ度金シタル銀器ノ載リタル皿ハ必深ク
沈ミ強ク傾クヘシ其時一方ノ輕クナリタル常ノ
銀ノ入りタル皿ノ上ニ純金ヲ加ヘ入レ水中ニ於

テ器ヲ度金スルニ用ユヘキ金ノ分量ナリ又其一
方ニ載セタル銀器ヲ以前度金スル時用ヒシ金モ
コレト同分量ナリシト知ルヘシ其秤ハ最モ製ノ
精密ナルヲ用フヘシ

製顔料金粉法

○金錢ヲ取りコレヲ鹽製ノ王水ノ中ニ投入シ得
火ニ上セ玉水其源ノ半分ニ至ルマテ蒸散セシム
而後ユレヲ涼濕ナル土巾ニ埋メ翌日ノ夕ニ至リ
取リ出スヘシ金必束針様ヲナシコレヲ取テ又蒸
露器ニテ製シ取りタル所ノ中ニ投入シテ溶化シ
再ヒコレヲ微火ニ止セ漸クニ蒸散セシムルト凡

其原ノ半分ニ至ルコレヲ又前法ノ如ク土中ニ埋
 メ束針様ニナラシムコレヲ取テ雨水ニ投入シ解
 化セシメ微火ニ上セ其水ノ半分ニ至ルマテ蒸散
 セシム而ノ又コレヲ土中ニ埋メ同夕束針様ニナ
 ラシム而後ニ顔料ニ用フコレヲ用ユル寸ハ細密
 ニ磨リ潰シ硬ク煮タル卵白ニ交ヘ又冷濕ナル處
 ニ置ク然ル寸ハ自ラ骨化シテ油トナルコノ油ヲ
 以下琢キタル銀器ヲ薄ク塗り漸クニ乾ス寸ハ尤
 モ美一シテ度金シタルカ如シ

不假火力製鍍銀器金粉法

○一ニノ金錢ヲ取リ薄ク打延ハシ自注一金ハク
用テモヨシ

コレヲ凡ソ其二倍ホトノ王水ニ投シ解化シ其上
 ニ金ト同分量ノ精潔ナル硝石ヲ加ヘ共ニ化ス皆
 ヨク鎔化シタラハ清淨ノ細密ナル綿布ヲ其中ニ
 入レテ攪勻シ而後其綿布ヲ引上テ微火ニテ乾シ
 ヨク乾キタラハコレヲ罈壺ニ入レ程ヨキ火ニテ
 燒キ化スヘシ然ル寸ハ壺中ニ紫黑色ノ粉末殘ル
 コレ則金粉ナリユレヲ用テ銀器ヲ渡金セント欲
 スル寸ハ預メ其銀器ヲヨク琢キ其上ニ此粉ヲ貼
 ケ指頭ヲ以テ強クミカクヘシ其銀器自ラ金色ヲ
 ナスコレヲ左ニ記ス水藥ヲ以テ洗ヒ精潔ニナス
 ヘシ火カヲ以テ諸金共ニ度金スルノ法ハ既ニ渡
 金條下ニ詳ニス

生蓋器之光澤水藥法

○硫黃十二錢明礬四錢礬石及アシチモニヤ各五分共二皆交和シ搗キテ細末トナス而後小便ヲ取リ壺ニ入レ煮テ其上ニウカム泡ヲ除キ去リ此ニ右ノ細末ヲ投入メトトニ煮ルヘシ此中ニ渡金器ヲ入レ置ク寸ハ金色自ラ美麗ヲナス火力ヲ用テ度金シタルモ火力ヲ用ヒスシテ度金シタルモトモニコノ水藥中ニ投セハ美麗ヲナスナリ尤コレヨリ取り出シタラハ總テ皆其上ヲ狼牙ヲ以テミカクヘシ光澤ヲ出スナリ

淡色金爲黃色法

○綠青ヲ取り細末ニ搗キ酢ヲ加ヘヨク此ヲ攪勻シコレヲ淡色ノ金器ニ塗リ火ニ燒キ其後ニコレヲ小便ノ中ニ投シ冷スヘシ美麗ヲナスナリ

又方

○葡萄酒石綠青鹵砂各細末ニ搗キ其上ニ酢ヲ投シ此中ニ金ヲ入レ其色ノ美トナルマテ煮ルヘシ此法亦良

解古癢金器色法

○清水ヲ取り陶器ニ入レコレニ少シシ強水ヲ加フ而後金器ヲ鑪壺ニ入レ火ニ燒キコレヲ右ノ調

七金書
冷水ニ投ヘシ蓋ヲ覆ヒ其水ノ沸爲スル音ノ静
ルヲ待テ其蓋ヲ開キ金器ヲ取リ出人不潔ノ垢班
皆去ルナリ若シコレニテ全ク去ラズハ幾度ヒ
斯ノ如クナスヘシ成シ了テ後又其色ヲ良クセン
ニハ前件所説ノ法ニ随フヘシ

又方

○氣ノ強キ灰汁ヲ取リ其中ニ古キ金器ヲ浸シ置
キ而ノ後取リ出シテ強毛ノ掃毛具ヲ以テスリハ
ラヒ清水ニテ洗ヒソクキ其上ニテ此ヲ小便中ニ
浸シ指頭ヲ以テヨクミカクヘシ其後ニ綠青鹵砂
二錢硝石五分其二皆粉末ニ搗キ交和シ陶器ニ入

レコレニ小便ヲ加ヘテ煮ルヘシ其中ニ清潔ニセ
ント欲スル金器ヲ絲ヲ以テ結ヒテ入レテ其色ノ
良クナルマテ煮ルヘシ煮ル間ニ屢々其絲ヲ以テ
其器ヲ引キアケ見ルヘシ既ニ色ヨク着キタラハ
清水ニ投シ洗ヒ灌キ乾キタル細密ノ綿布ヲ以テ
又クフヘシ色最モ美麗清潔トナルナリ

又方

○鹵砂ニ少シク硝石ヲ加ヘ共ニ小便ニ投ヘシテ
ユレテ解化スヘシ其中ニ金器ヲ入レテ煮テモ良
シ
銀並ニ其他ノ諸金ヲ度スルノ法及ヒ其渡金シタ

ル其金ヲ再ニ分離スルノ法ハ度金ノ條下ニ於テ
詳ニス

精潔金器珠玉法

○氣ノ強キ本灰或ハ鯨蓬ノ灰汁ヲ取り此中ニ或
ハ綿布或ハ柔輦ナル草ヲ浸シコレヲ以テ金器ヲ
磨クヘク又屈曲細線等アリテ皮布ノ及ヒ至ルヘ
カラサル處ハ掃毛具ニコノ灰汁ヲ着ケ以テ磨ル
ヘシ金器ノ垢全去ルナリ

又方

○硫黄四錢金剛砂八錢共ニ煮テ粉末トナシ又コ
レヲ質精密ナル石盤ニ於テ磨シ極粉末トナシコ

レヲ軟柔ナル草ニ着ニ以テ金器或ハコヒワ或玉
石ノ類ヲ磨スヘシ但シ其器ニ因テ屈曲細筋等ア
ラテ草ノ及ヒ至ラサル所ハ強毛ノ掃毛具ニ此ノ
粉末ヲツクテミカクヘシ美麗ニナルナリ前法ノ
灰汁ヲ以テ垢ヲリリタハ物ヲ尚又此粉末ヲ以テ
磨スル寸ハ益其光澤ヲ發スルナリ

又方

○マルノルステイン石名及ヒ燒キタル牛骨ヲ取テ
共ニ細末ニ搗キコレヲ前法ノ如クニ用ユヘシ但
シ金剛石ナリヒ金器ノ類ヲ琢磨スルニ此粉末ヲ
用ユレハ最ニ其光澤ヲ生スルナリ

復金銀之色法

○金銀綠或ハ衣服ノ金挑等久シク用ヒスシテ色
ヲ失ヒ白ク銀色ノ如クナルモノハ左ノ法ヲ以テ
再ヒ其色ヲ復シ新製ノ物ノ如クニナスヘシ

○コムラク紫チルキマ金麒麟血各五分共ニ粗末
トナシ焼酎ニ投入シ置クヘシ色自ラ排色トナル
コノ焼酎ヲ筆頭ニ貼シ以テ其失色シタル金銀縁
等上ヲ塗り其上ニ火斗ヲ近接スルトナク遠クヨ
リ中テ漸クニ乾スヘシ乾ク寸小色初メニ復シ殆
ト新製ノ物ノ如クニシテ其色ニ因テ其色曲直
○若シ又少シ許サ失色シタルモノナラハ唯海鱈

鮎及硫黄ヲ取テ共ニ細末トナシ柔毛ノ掃毛共ニ
貼ク以テ其上ヲ磨シテ良シ又銀箔縁ナラハ海鱈
鮎ノ細末ノミヲ用テヨシ

焼取金銀縁法

○久シク用テ古キ金銀箔縁ノ其金銀ノ色モ失亡
ヒサル様ニ焼ク取ルニハ其古キ物ヲ集メ新キ土
壺ニ入レ蓋ヲヲ、ヒコレヲ火ニ上セ煨クト一二
小時而後火ヨリ下シ清潔ノ器ニ移シ其上ニ清水
ヲ投シ其黒色ノ物ヲ洗ヒ除クヘシ金銀ハ其底ニ
沈ムナリコレヲ取リテ乾カスヘシ又其金銀ヲ一
塊トナサンニハ鑪壺ニ入レ礪砂ヲ少シク加ヘ溶

化シ鐵器ニウツスヘシ但シ金銀相合シ一体トナ
リタルハ強水ニ投スレハ自カラ相分別ス

容易鎔化金銀及移動不附着鑪壺法

○金銀容易ニ鎔化セシムルニハ少シク崩砂ヲ加
フヘシ亦コレヲウツスニ及テ少ヒ鑪壺ニ附着シ
殘ラザル様ニスルニハ番歷青蠟脂油ヲ取テ其二
徳火ニテ鎔化シ紙ニテ漉シコレヲ鎔化シタル金
銀ヲウツリシトスル寸ニ臨テ其鑪壺ニ投スヘシ
燒ケテ炎トナル其燒ケテ猶炎ヲ發スル間ニ化金
ヲ鑪壺ヨリ移スヘシ少ヒ鑪壺ニ附キ殘ル門ナク
皆速ニ出ルナリ

重金量法

○新シキ馬糞ヲ取リ汁ヲ絞リ其中ニ金錢或ハ金
器ヲ浸シ置クヘシ必ス其量目重クナルナリ

製金泥法

○金箔ヲ取リコレヲ蜂蜜ニ入レ細粉トナルマテ
スリ粉末トナリタラハ此ヲ別器ニウツシ其上ニ
清水ヲ投入シヨク攪勻シ金粉其底ニ沈ミタラハ
其水ヲ去ル其水ノ清潔ニナルマテ幾度ヒ斯ノ如
クナスヘシ而後ニ其金粉ヲ取テ強水中ニ投シ其
中ニテク一二宿其後ニ其強水ヲ捨テ去テ金粉
ヲ乾シ貯ヘ用ユコレヲ用テ書畫ヒント吹スル時

ハ脂水ニ交和スルナリ

○金箔ヲ以テ金泥ヲ偽製スヘキナリ銀泥ヲ造ル法モ製金泥法ト同シ

又方

○アラビヤゴムヲ取テ水ニ化シ適宜ノ濃サニナシ此中ニ細末ノ硝石又ハ鹵砂ヲ入スリ交ヘ凡ソ密ノ濃サニナシ此中ニ金箔或ハ銀箔ヲ入レテ其細末トナルマテ磨シヨク細末トナリタラハ陶器ニ移シ其上ニ温水ヲイレハアシハ熱湯ヨク攪勻シ細密ノ綿布ヲ以テユレテ別器中ニコシイレ不潔ノ物ヲ去リ其止ニ清水ヲイレ金粉ヨク其底ニ

沈ミタラハ其水ヲ他ノ器ニ移スヘシ自註ニ日此水中ニモ金

ナリ而又其上ニ温水ヲ投シテ攪勻シ金粉

ヨク底ニ沈ミタラハ又初ノ如ク水ヲ捨テ去ルヘ

シ斯ノ如ク金粉ノ色美潔ニナルマテ幾度モナシ

而後ニ取リ時ヲナリ

設紙草金色書畫法

○水田ヲ取テ極末ニ搗ヤ磨シコレニ脂水ヲ投シヨク攪勻シコレヲ以テ紙上或ハ草面ニ書畫ヲナシヨク乾カシテ後金片ヲ以テ其上ヲ強ク二三度研磨スヘシ其書畫自カラ金色トナルナリ但シ右ノ脂水ニサブラシキ入レ黄色トナシコレヲ用テ

スル寸ハ金色益々良キヲ得ルナリ

用金漆附硝子皿血紅色顔料法

○金箔ヲ取テ毛水ニ混化シ別器ニ又王水ヲイレ
コレニ佳品ノ諸厄利亞産ノ錫ヲ入レテ化シ又別
器ニ蒸露罈ニテ引キタル水ヲ入レ置キ此水ノ中
ニ件々金ヲ化シタル王水二三ナ入レ其上ニ又錫
ヲ化シタル王水二三滴ヲ入レ瓦ヒ違ニコレヲ滴
入ル寸ハ其水色自カラ變シテ紅色トナルコレ
ヲ時久シク静メ置クトキハ其底ニ粉末沈着シタ
ラハ静ニ其上ノ水ヲ奪リ新ニ其上ニ清水ヲ入レ
換テ洗ヒ濯キ而微其粉末ヲ取り貯フヘシ珠玉偽

製スルニコレヲ用テ美紅ノロペイニ色ヲ添メ得
ルナリ詳ニ硝子ノ條下ニ記セシカ如シ

○又金ノミヲ王水ニ化シ錫ハ化解セシメタルヲ
用テモ良シ即清水ニ右ニ云フ金ヲ化シタル王水
ヲイレ而後ニ一片ノ解化セシメサル錫ヲイレテ
モ共ニ相同シ何トナレハ初メ清水ニ化金ノ王水
ヲ入ル寸ハ其色黒色ニ變ヌコレニ一片ノ錫ヲイ
レ暫ク置ク寸ハ色漸クニ變メ紅色トナレハナリ
但シ色既ニ適宜ニナルヲ得ハ直ニ其錫ハトリ除
クヘシ

添鐵金色法

○金箔硝石明礬食鹽各等分ヲ取テ其二細末トナ
 シ器ニイレ其上ニ水ヲ投入シ武火ヲ以テ煮熬ク
 ヘシ既ニ黄色ニナリタテハ其上ニ佳品ヲ燒酎ヲ
 投入スハシ益々黄色トナルナリ此中ニヨク味キ
 タル鐵器ヲ浸ク置ク寸分其鐵自ラ美麗ノ黄金色
 トナルナリ

泰西七金譯說卷之一畢

